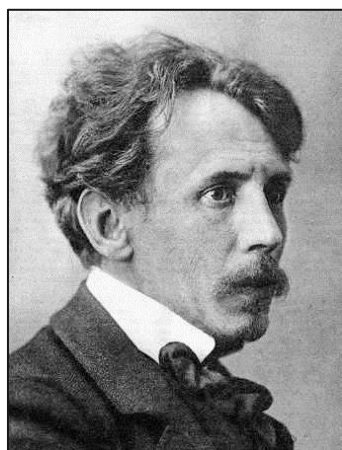


留学先大学：Vytautas Magnus University

氏名：金子 のの子

Labas! 11月-Lapkritis-に入りました。リトアニア語で11月を指すLapkritisは「葉が落ちる月」という語源からきているとリトアニア人の友だちが教えてくれました。赤や黄色の葉をつけた木々たちも冬を迎える準備を始めて葉を落とし、少し寂しい街並みが広がるカウナスです。今月は、チュルリョーニス美術館と授業でのプレゼンテーションについてお伝えしようと思います。それでは、11月の報告書ははじめます！

### 【多才な画家・チュルリョーニス】



今回の主人公は、Mikalojus Konstantinas Čiurlionis(ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス)です。いまだに彼の名前を言うとき一発で正しく発音できなかったことがあります(笑) そんな名前をもつ彼はリトアニア南部出身の画家であり、彼の作品を飾る美術館がカウナスにあります。チュルリョーニスは、幼い頃オルガン奏者の父からピアノを習っていた影響もあり、画家だけではなく作曲家としても活動し、約300点の絵画と200点ほどの楽曲を遺しています。また、美術館には彼が撮った写真が展示されており、写真家としての才能もうかがわせる人です。35歳という短い生涯の中で生み出された彼の作品は、

1992年に日本でも公開されています。(チュルリョーニス展@東京センゾン美術館)

チュルリョーニスが描く絵には、やわらかで幻想的な世界が広がり、思わず心がほっこりさせられるような温かさを感じられます。彼の目から見た世界はどう映っているんだろう... 気になります。ちなみに私は「Friendship」という絵が好きです！



### 【授業でのプレゼン】

今期履修している2つの授業でプレゼンテーション課題がありました。授業によって異なりますが、成績をつける際に筆記テストやレポートで判断するように、プレゼン発表に重きを置く教授も中にはいます。正直、プレゼン発表は好きではありません。発表するまでの不安感とこちらを試すような目線、張りつめた空気の中での緊張感(大げさ?)がたまらなく嫌です。そこには間違ったら、止まったらどうしよう、どう思われるんだろうと他人の自分に対する評価ばかりを気にする私があります。でも、今期はプレゼン発表を避けずに授業を取りました。それは、留学しているからこそ英語しか通じない人たちの前でプレゼンする機会があり、限られた期間を過ごしているからこそ、挑戦する気になる、その中で何かやってみよ

うと思えるからです。あとは、プレゼンを通して自分は何を伝えたいかがいちばん大事なことで忘れなければ何とかできます。

いちばんダメなのは、小さな声でいかにも自信なさそうになよなよ発表すること。これは逆に視線が自分に集中して、やっぱり日本人は... となめられます。つたない英語で自信がなくても、それを感じさせないくらいはっきり堂々と伝えれば、授業中に興味なさそうにスマホをいじっている人たちがパワーポイントに目を向けてくれます！笑

・ **Studies of Colonialism and Post-Colonialism** というヨーロッパの植民地政策を主に学んでいくクラスでは、授業の中で取り上げたトピックに関連したテーマを自分で決めて、20~30分程度のパワーポイントにまとめて発表するのが課題でした。私が選んだテーマは「**Stolen Generations**」 オーストラリア政府によって強制的に家族から引き離された先住民 **Aboriginal Australians** の子どもたちについて描いた映画 **Rabbit Proof Fence**(邦題：裸足の1500 マイル)を例にイギリスの植民地政策と先住民族への迫害を取り上げました。授業で教授がこの映画についてふれたとき、私は福井大学の授業でまさにこの映画を観たことを思い出したと同時に、今まで学んできたことが留学先でも繋がっていることを実感した瞬間でした。プレゼンは、政府がなぜ先住民の子どもたちを隔離しようとしたのか、政府側の人間が先住民族をどのように見なしていたのかななどを、映画で描かれているシーンや登場人物に触れながら説明することで具体的なイメージができるようにしました。

・ **International Cooperation in the Black Sea Region** という黒海周辺の地域統合とその国々の経済的、政治的関係性や紛争問題について学ぶクラスは、決められた国の国内情勢や外交政策についてグループで 30 分ほど発表する課題でした。私はクロアチア人の女の子がパートナーで、与えられた国はギリシャでした。グループプレゼンの難しいところは、どう予定を合わせて会うかと、どう役割を分担するかです。幸い私たちは同じ寮に住んでいたの寮で話し合いができ、役割分担もすんなりできてよかったです。他のグループにいた友達から聞いた話によると、直前までメンバーを把握できなかつたり、前日になってようやく打ち合わせができたりと、苦労が多かったようです。グループだとどうしても誰かがやってくれるだろうと思って何もしない人や話し合いに参加しない人もいますが、まずは個人のパートをしっかりと完成させることです。

#### ◆Speaking がものをいう！？

ほかの留学生は英語で自由に話を展開できますが、パワポのクオリティは低いです(もちろん高い人もいます!)。日本人は、パワポのクオリティと課題に対する準備は十分ですが、英語の **Speaking** は劣ります(劣らない人も中にはいます!)。グループだといいい感じにお互い補うことができますが、個人で発表する場合はどうでしょう。やはり **Speaking** が重要になってきます。パワポは理解を助けるものですが、最終的に人の心に伝え、訴えかけ、届くものは言葉です。プレゼンテーションをする側になると特にこのことをはっきりと実感させられた気がします。